



2022年12月期 上期決算説明会

株式会社 堀場製作所

代表取締役社長 足立 正之

2022年8月12日

説明内容

- 2022年12月期 上期 決算概要
- 2022年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- 2022年12月期 上期 決算概要
- 2022年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

2022年12月期 上期の振り返り

外部環境

- ◆ 調達難および調達価格の高騰
- ◆ ウクライナ危機やエネルギー問題等の国際情勢の複雑化
- ◆ 経済安全保障として半導体産業の世界的な構造改革が進む
- ◆ カーボンニュートラル対応として水素エネルギーへの関心が高まる
- ◆ ライフサイエンス分野へさらに関心が集まる

内部状況

- ◆ 中国・欧州を中心に成長投資
- ◆ 水素エネルギー・ライフサイエンスなど新分野のビジネス拡大
- ◆ 新技術開発に注力、積極的な製品上市
- ◆ HORIBAグループ各社連携による調達力強化

2022年12月期 上期連結実績

(単位：億円)

	2021年	2022年		増減	
	上期実績	前回予想 (5/13)	上期実績	対前年	対 前回予想
売上高	1,013	1,190	★ 1,149	+136	▲40
営業利益	130	170	★ 162	+31	▲7
営業利益率	12.9%	14.3%	14.1%	+1.2p	▲0.2p
経常利益	130	168	★ 167	+37	▲0
親会社株主に帰属 する四半期純利益	87	110	★ 112	+24	+2
USドル (円)	107.82	-	123.14	+15.32	-
ユーロ (円)	129.89	-	134.39	+4.50	-

2022年12月期 上期連結実績（セグメント別）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2021年	2022年	対前年同期増減	2021年	2022年	対前年同期増減
	上期実績	上期実績	金額	上期実績	上期実績	金額
自動車	249	256	+7	▲11	▲17	▲5
環境	100	★ 101	+1	11	6	▲4
医用	128	136	+7	3	▲1	▲4
半導体	400	★ 494	+93	123	★ 167	+44
科学	134	★ 159	+25	4	★ 7	+3
合計	1,013	1,149	+136	130	162	+31

2022年12月期 上期連結実績（B/S、CF）

B/S

- ◆総資産は、棚卸資産の増加などにより
+268億円の3,983億円
- ◆自己資本比率は56.2%

（2021年12月末比）

CF

- ◆利益計上などにより、営業CF：+102億円
 - ◆設備投資などにより、投資CF：▲30億円
 - ◆配当金の支払などにより、財務CF：▲69億円
- フリーCF：+71億円

説明内容

- 2022年12月期 上期 決算概要
- 2022年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

HORIBAから見た市場環境の想定

全般		With/Postコロナにおいて経済活動は回復基調 部材の不足や価格高騰など調達面、複雑化する国際情勢に引き続き懸念
自動車		電動化・自動運転をはじめとする開発投資の増加を期待 調達難による出荷・検収の遅れを懸念
環境		環境規制需要は堅調に推移し、大気・水質計測を中心にアジア市場が拡大 新製品上市によるアプリケーションの拡大を期待
医用		新型コロナウイルス感染症の収束が地域により不透明であり、 市場環境は見通しにくい
半導体		半導体メーカーの設備投資は高水準で継続 半導体製造プロセスの技術進化により、中期的に計測需要が拡大
科学		半導体市場での開発および製造プロセス向け分析・計測機器が堅調 ライフサイエンス市場での需要拡大を期待

2022年12月期 連結業績予想

(単位：億円)

	2021年	2022年		増減	
	実績	前回予想 (5/13)	今回予想 (8/12)	対前年	対 前回予想
売上高	2,243	2,600	★ 2,600	+356	-
営業利益	320	380	★ 400	+79	+20
営業利益率	14.3%	14.6%	15.4%	+1.1p	+0.8p
経常利益	320	375	★ 400	+79	+25
親会社株主に帰属 する当期純利益	213	255	★ 280	+66	+25
USドル (円)	109.90	124.00	130.00	+20.10	+6.00
ユーロ (円)	129.91	133.00	135.00	+5.09	+2.00

2022年12月期 連結業績予想（セグメント別）

（単位：億円）

	売上高					営業利益				
	2021年	2022年		増減		2021年	2022年		増減	
	実績	前回予想 (5/13)	今回予想 (8/12)	対前年	対前回予想	実績	前回予想 (5/13)	今回予想 (8/12)	対前年	対前回予想
自動車	612	700	660	+47	▲40	▲0	15	-	+0	▲15
環境	202	235	★ 235	+32	-	19	20	20	+0	-
医用	258	285	★ 285	+26	-	1	5	5	+3	-
半導体	870	1,030	★ 1,070	+199	+40	280	315	★ 350	+69	+35
科学	299	350	★ 350	+50	-	19	25	★ 25	+5	-
合計	2,243	2,600	2,600	+356	-	320	380	400	+79	+20

説明内容

- 2022年12月期 上期 決算概要
- 2022年12月期 上期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

2022年上期実績/通期予想

(単位：億円)

2022年上期実績

- 受注は回復傾向、堅調だが、調達難の影響を受け、出荷・検収時期がスライド

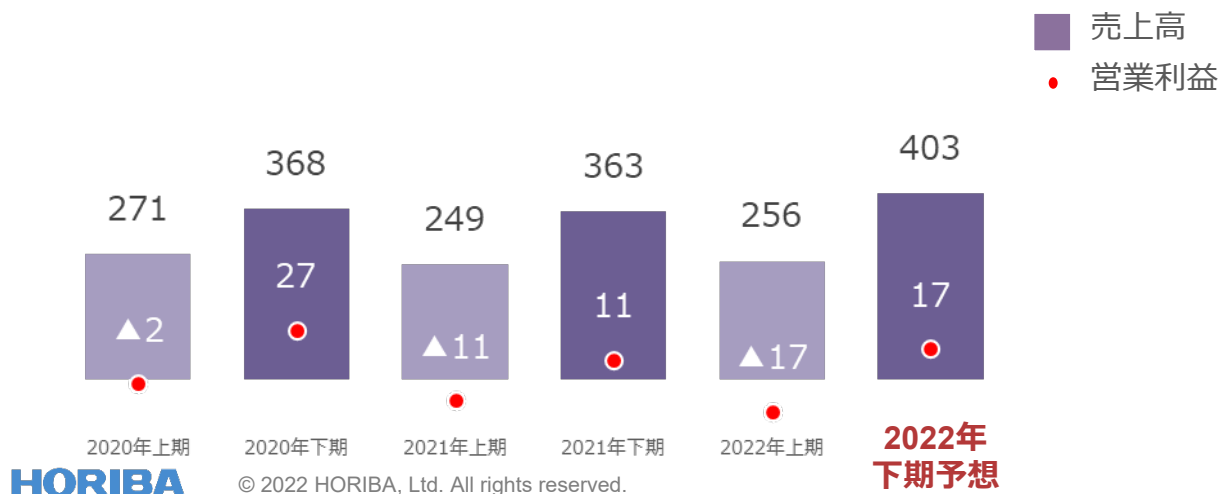
【排ガス】

- ・ 欧州や米国でトラック・バスなどHeavy-duty vehicle向けの需要取り込み

【MCT※1 ECT※2】

- ・ 新技術・電動車両開発ソリューションへの需要が拡大
- ・ 新エネルギー、特に水素技術関連での需要増加

売上高・営業利益推移（上期/下期）

2022年通期予想
中長期見通し

※1 Mechatronics（自動車計測機器）
 ※2 Engineering Consultancy & Testing
 （自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験）

- 調達難、価格高騰の影響を引き続き懸念
- パワーユニットの変革期における車両開発サポートに注力

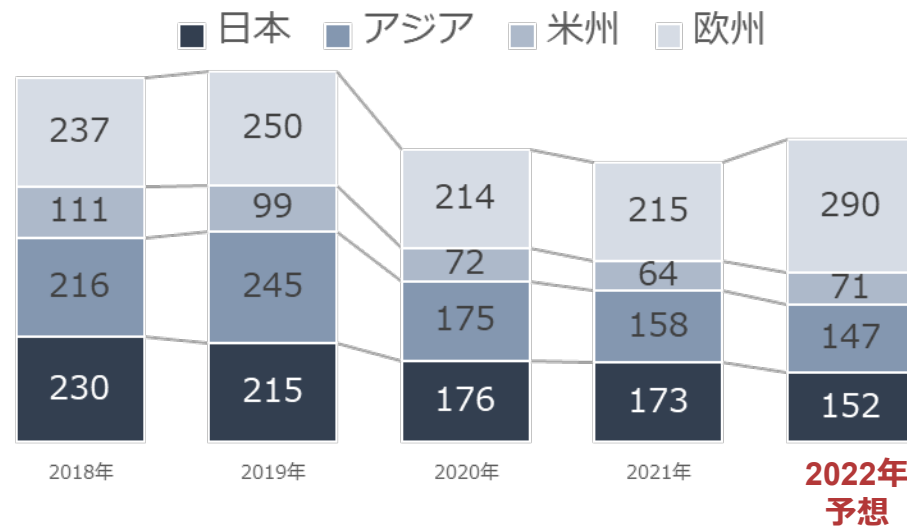
【排ガス】

排ガス新規規制導入対応を見据えた中期的な需要の増加

【MCT・ECT】

- ・ 次世代モビリティ開発分野での拡販を見込む
- ・ 水素技術関連でのさらなる需要拡大を期待

地域別売上高推移



2022年上期実績/通期予想

(単位：億円)

2022年上期実績

- ビジネスは堅調だが、調達価格高騰の影響を受ける

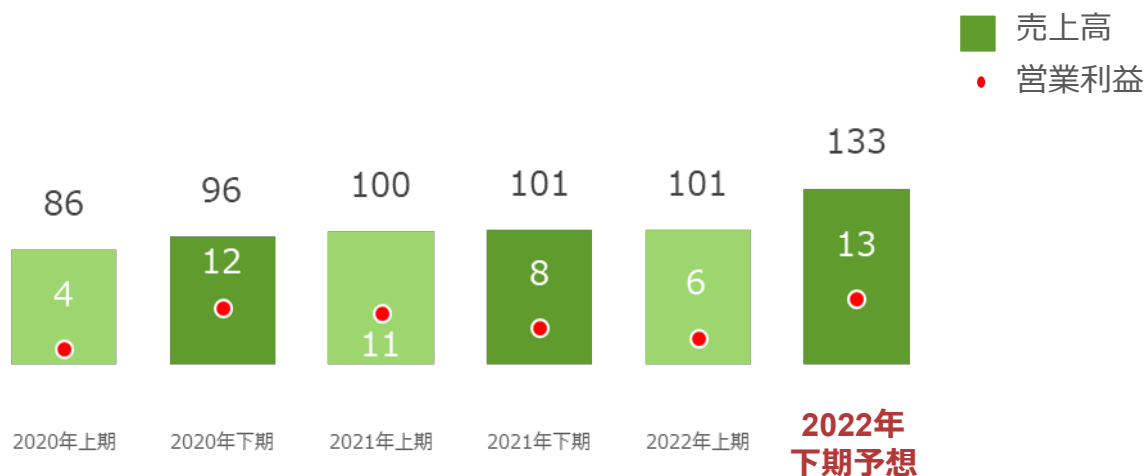
【ガス計測】

- ・ リプレイス需要が好調、日本での販売増加
- ・ 既存発電所での計測関連需要堅調

【水質計測】

電子産業などの製造プロセス、また環境規制対応に向けた水質計測機器の需要堅調

売上高・営業利益推移（上期/下期）

2022年通期予想
中長期見通し

※1 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage
(二酸化炭素回収・有効活用・貯留)

※2 Total Organic Carbon (全有機体炭素)

- 環境規制関連、また電子産業関連の計測需要が堅調

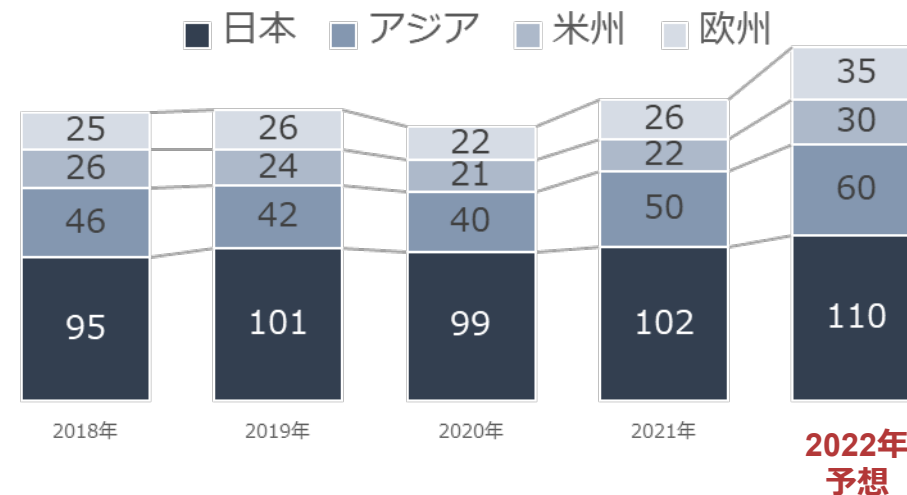
【ガス計測】

- ・ 電子産業でのガス計測需要の増加を期待
- ・ 水素やアンモニア燃焼発電など新エネルギー対応やCCUS※1関連の需要増加を見込む

【水質計測】

TOC計※2など新製品ならびに規制需要を取り込み

地域別売上高推移



2022年上期実績/通期予想

(単位：億円)

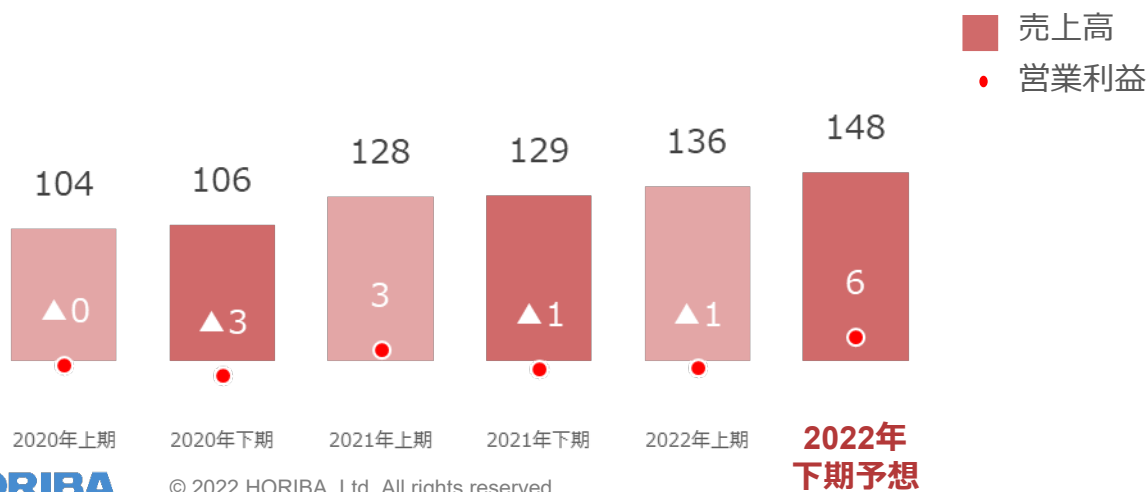
2022年上期実績

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が残り、検査試薬の販売は低調に推移
- アジアなどで血球計数装置の販売が増加
- 欧州などで生化学用検査装置及び試薬の販売が増加

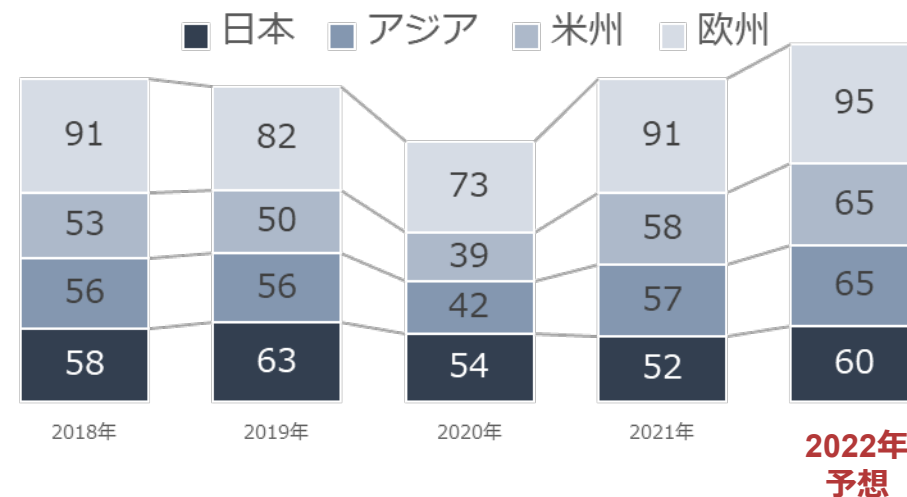
2022年通期予想 中長期見通し

- 新型コロナウイルス感染症拡大の収束と、それに伴う病院への通院患者数の本格回復を期待
- シーメンス向け血球計数装置の供給が本格化。一部販売を開始している欧州よりグローバルに拡大。中長期的な収益貢献を見込む
- 免疫や生化学分野など血球計数分野以外でのさらなるビジネス拡大をめざす

売上高・営業利益推移（上期/下期）



地域別売上高推移



2022年上期実績/通期予想

(単位：億円)

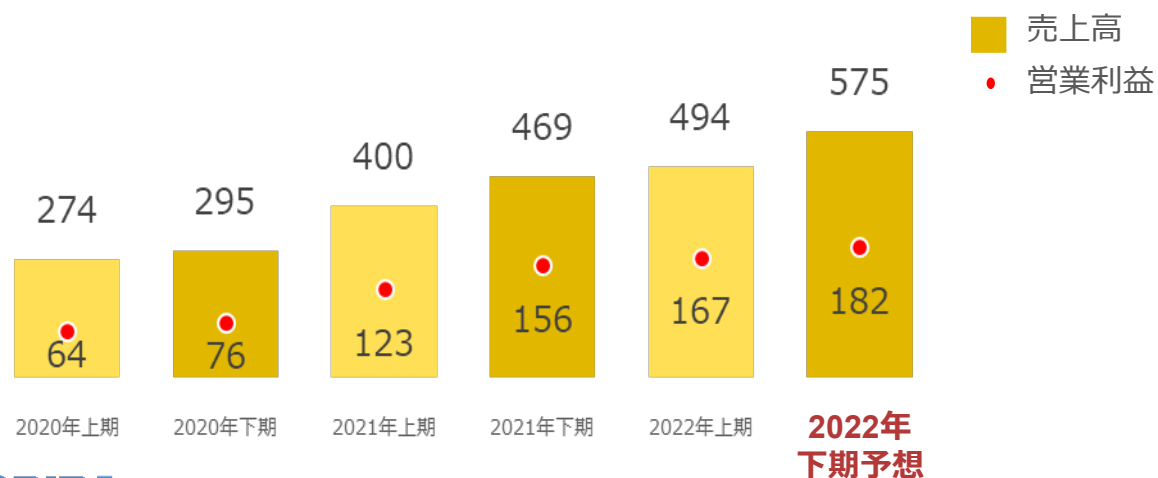
2022年上期実績

- 半導体メーカーの設備投資が一層拡大。半導体製造装置メーカーへの販売が大幅に増加
- 中国・インド向けビジネス拡大。カーボンニュートラルの観点から需要が増加している太陽電池製造用製品などの販売拡大

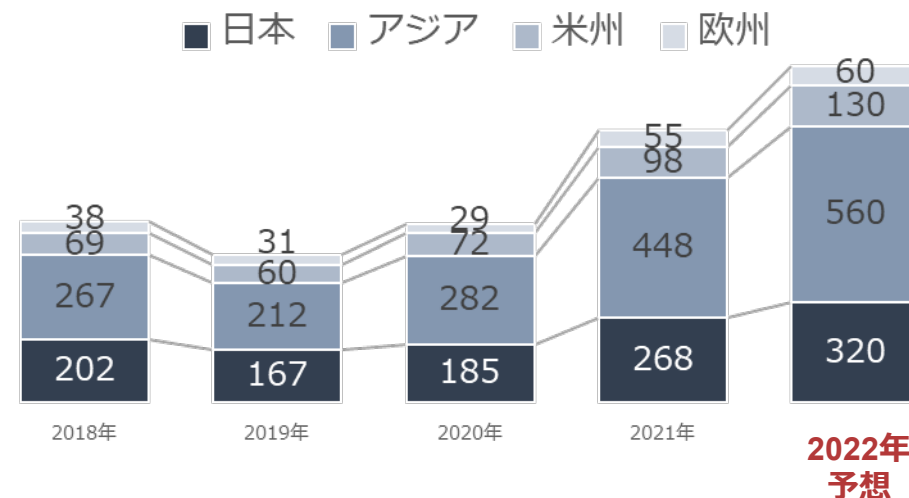
2022年通期予想
中長期見通し

- 引き続き、半導体メーカーの設備投資の増加、半導体製造装置メーカーへの販売増加を想定
- 調達難、調達価格高騰の影響を懸念
- 既存主力製品に加え、センシング技術活用による、ビジネス領域の拡大を引き続きめざす

売上高・営業利益推移（上期/下期）



地域別売上高推移



2022年上期実績/通期予想

(単位：億円)

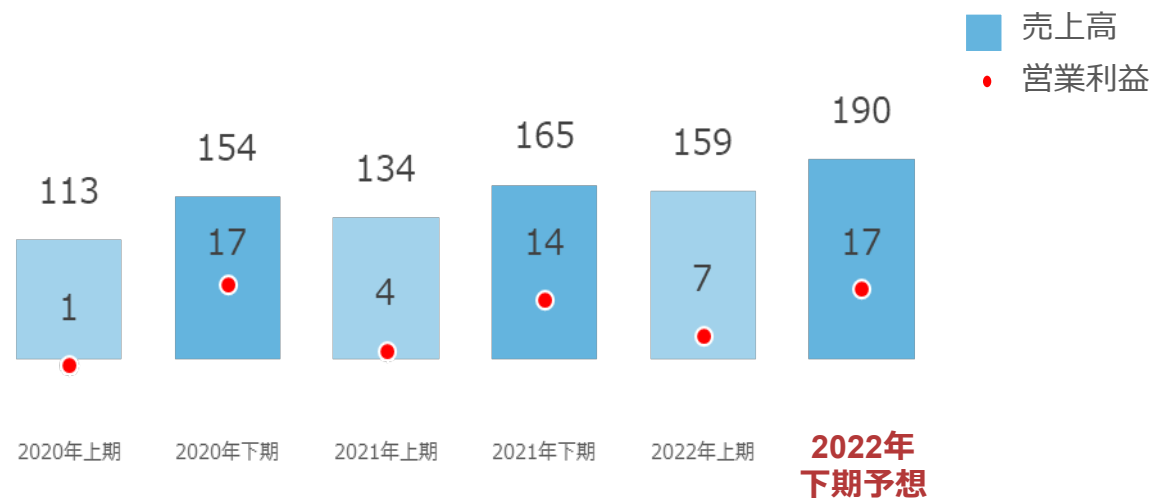
2022年上期実績

- 半導体製造装置メーカー向けなどの光学モジュールの需要堅調、販売増加
- 企業などの研究開発投資の回復に伴って、ラマン分光分析装置などの販売増加

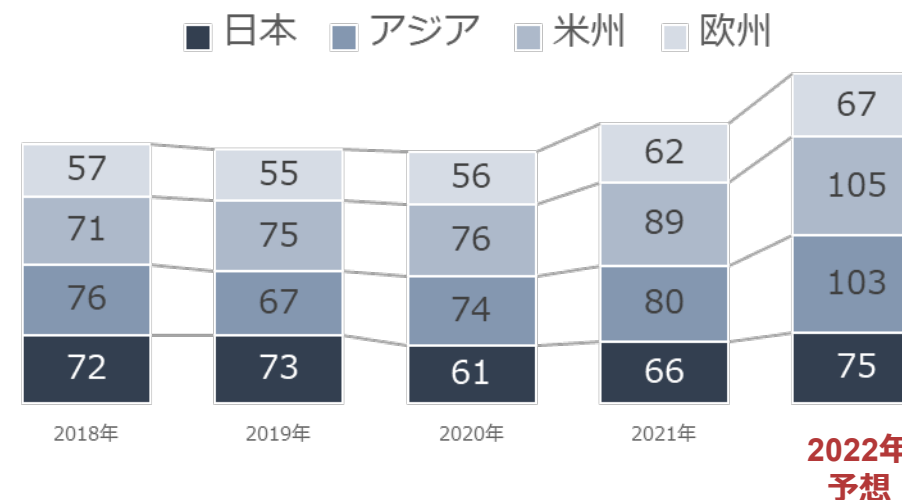
2022年通期予想 中長期見通し

- ビジネスは堅調だが、部材調達、価格高騰の影響を懸念
- これまでに市場投入してきた新製品の成果の刈り取りを見込む
- 分析・計測のアプリケーションを技術・営業の両面より強化。食品や製薬などライフサイエンス分野、半導体市場の産業プロセス向けにソリューションを提供

売上高・営業利益推移（上期/下期）



地域別売上高推移



説明内容

- 2022年12月期 上期 決算概要
- 2022年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

クロスセグメントで様々な社会課題に対応

中長期経営計画「MLMAP2023」

Market Oriented Business

メガトレンドをリードする3フィールドに、コア技術をフル活用した分析・計測ソリューションを展開

Energy & Environment

Bio & Healthcare

Materials & Semiconductor

自動車

医用

半導体

環境

プロセス

科学

Solution Provider Beyond “Life Cycle Management”

製品導入からリプレイスまで、全方位でお客様のコアビジネスをサポート

自動車事業
3つのコンセプト

Service Lifecycle
Management

Mobility Solution
Business

Alternative Energy
Conversion

ホリバフューエルコン社の新工場稼働開始

カーボンニュートラル実現に向けたニーズに対応

- ✓ 新エネルギービジネスのグローバル・ハブ拠点として「HORIBA eHUB」と命名
- ✓ 2023年中をめどに生産能力を従来の約3倍に増強



上：
eHUBでのEvaluator
シリーズ製造ライン



右：
バッテリー、燃料電池、
エレクトロライザー
評価装置
「Evaluator」

欧州では再生可能エネルギーで
水素を生成する水電解装置
(エレクトロライザー) の量産開始

Evaluatorシリーズは
エレクトロライザー開発用評価
装置と製造用検査装置

増加するニーズに応える拠点
HORIBA eHUB



所在地： ドイツ・バルレーベン
建屋面積： 9,900㎡
(開発・生産エリア 7,000㎡、
オフィスエリア 2,900㎡)
従業員数： 139人 (2021年12月末)
投資額： 約35億円

次世代モビリティ開発への貢献

高度な車両エンジニアリングサービスへの需要増加



買収直後から継続的に投資

先進的排ガス試験設備
先進的バッテリー試験設備
環境風洞実験室
Vehicle Resilience※技術センター
開発エンジニアリング総合施設—Assured CAV
等

※車両の高度化に伴う脅威を排除するソリューション



Vehicle Resilience技術センター



ASSURED CAV

2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022...

ホリバMIRA社
買収

ECTビジネス受注動向

受注増加

さらなる飛躍へ

REE



TOGG



Viritech



次世代モビリティ開発に
注力する企業との
プロジェクト

「HORIBAは燃焼計測をやめません」

複雑化する国際情勢によるエネルギー問題に貢献

自動車電動化移行期における新車需要に応える
既存のエンジン排ガス測定装置や開発ラボの活用を手厚くサポート



エンジン排ガス測定装置—MEXA—
エンジン排ガスの分析を通じて、
エンジン内の燃焼制御をモニタリング

2001-2021年にMEXAシリーズは
約8,000台を出荷
HORIBAのインストールベースに

多面的なアプローチで
自動車開発用ラボの稼働率を担保

＜更新＞

将来にも使える最新設備に更新
最新スペック設備の導入

＜延命＞

機能維持の延命稼働プラン
新機能の追加

＜リサイクル＞

部品単位の取り外し
修理用ストック部品の管理

厳しさを増す電力需要の増加に応える
従来型発電所の効率化へ貢献



煙道排ガス測定装置 —ENDA—

発電所などに導入されている
排ガス処理のプロセス
コントロール用装置



- ✓ 安全稼働や電力の安定供給、発電効率の向上など火力発電所の課題に貢献
- ✓ 排煙脱硫装置、排煙脱硝装置のモニタリングは発電プロセスの効率化をサポート

ヘルスケアビジネスの展開 <医用事業>

※IVD（In Vitro Diagnostics）体外診断用医薬品

医用事業—IVD※分野でのさらなるビジネス拡大をめざす

自動血球計数CRP測定装置「Yumizen H330 CRP」

- ✓ 血球計数と炎症の指標となるCRPを同時に測定
- ✓ COVID-19を含む感染症において重症度の診断指標の一つとしても活用

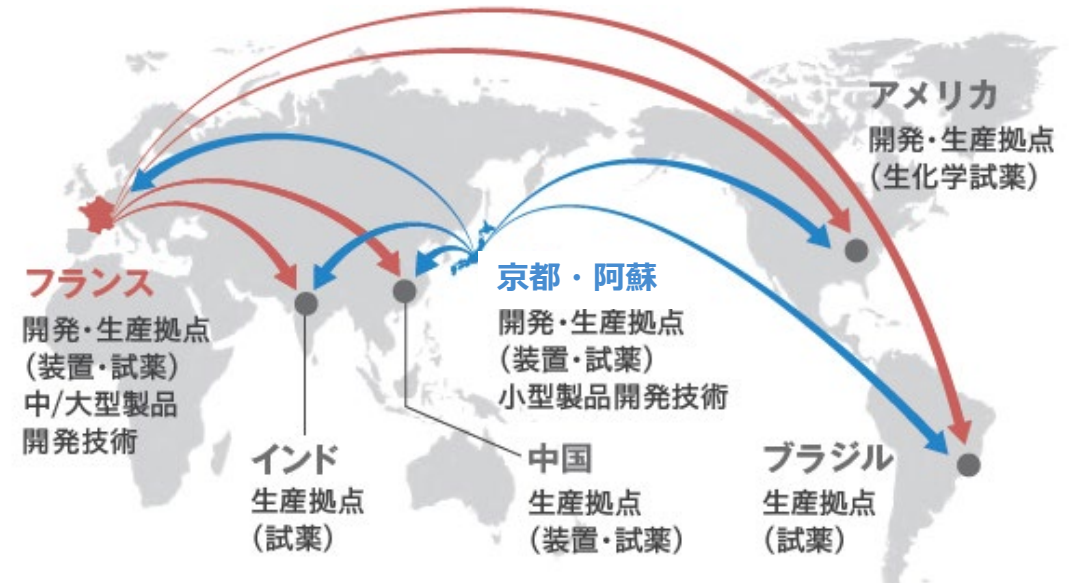
HORIBAの 自動血球計数CRP測定

- 1998年に世界で初めて市場投入
- 国内シェアは約90%



新製品

【医用事業】製品開発と試薬生産のグローバルネットワーク



ホリバ・インド社 ナグプール新試薬工場

- ✓ 現行のハリドワール工場と合わせて約4倍となる年間約8,000トンの試薬生産能力を確立
- ✓ インドにおいて血球計数測定や生化学検査分野で需要拡大を見込む



試薬工場

2022年1月稼働開始

所在地：	インド・ナグプール
延床面積	23,900㎡ (内、試薬工場 7,769㎡)
従業員数：	35人 (2021年12月末)
投資額：	約19億円

ライフサイエンス分野でのビジネス拡大

食品や製薬業界への積極的なアプローチ

残留塩素濃度モニター「UP-400CL」

- ✓ 野菜洗浄に特化した独自の測定技術で、食品調理・製造・加工現場での洗浄水の塩素濃度を管理するオンラインモニター
- ✓ 自動サンプリング、自動測定データ出力で測定値を一括管理、食の安心安全に貢献

- 残留塩素濃度モニターとして世界で始めて※ダイヤモンド電極を採用
- 高寿命化、電解水も高精度に測定可能



※2022年4月時点、当社調べ

微生物迅速検査装置「Rapica」

- ✓ 製品中に含まれる微生物を検査、厳格な品質管理を可能に
- ✓ 製薬・飲料・再生医療など、幅広い領域での品質管理の高度化と生産性向上に貢献



- 培養法では数日かかる微生物の検出が、培養不要で約2.5時間で可能
- 人が関与する操作は最小限にし、作業者からの汚染リスク、作業工数を低減

製薬プロセス向けラマンモニター

- ✓ 医薬品製造プロセスで非破壊モニタリングが可能、製造の設計・解析・品質管理に貢献
- ✓ 今後ニーズの高まるバイオ医薬品の培養液の組成や抗体濃度など管理指標モニタリングを通じて、開発・製造の効率化と品質向上を図る



多彩なラマンプローブ

半導体市場向けクロスセグメントビジネスの機会拡大

半導体製造プロセスにおける生産性改善に貢献

AMC※モニタリングシステム

- ✓ 半導体や電子部品産業などでは クリーンルーム内でAMCが製品や製造装置の性能に影響
- ✓ AMCトレンドを自動で監視、汚染原因の推定
- ✓ 汚染状況の見える化と管理コスト削減を実現

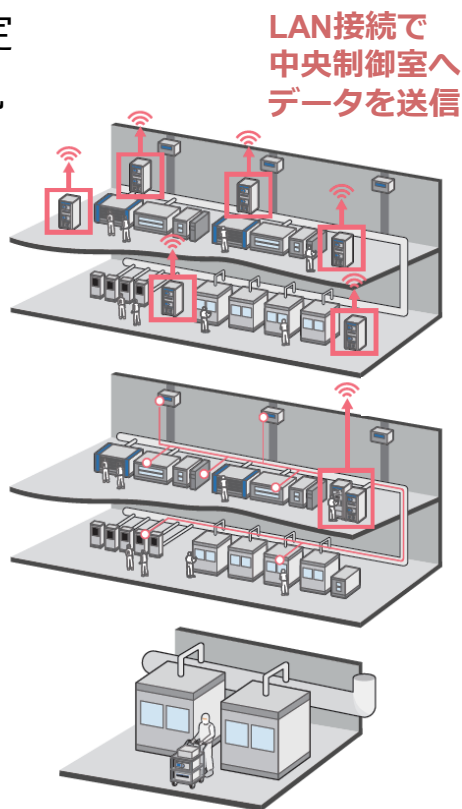
※AMC : Airborne Molecular Contamination
分子状汚染物質



設置型スタンド
アローン分析計で
各点自動連続測定

ラインセクタによる
複数箇所の自動測定

可搬式スタンド
アローン分析計で
各点測定



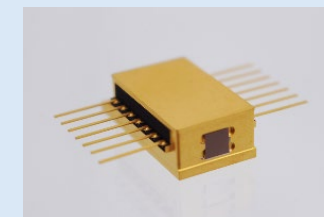
半導体工場向けCEMS※【開発中】

- ✓ 半導体製造プロセスで使用するガスを大気放出する前に無害化されたことを監視する計測装置
- ✓ 独自開発技術IRLAMを活用し、排気ガスに含まれる様々な成分を高精度に測定

※CEMS : Continuous Emission Monitoring System
排気ガスの継続的計測

IRLAM Infrared Laser Absorption Modulation

- ✓ 赤外レーザー吸収変調法
- ✓ HORIBAが独自に開発したガス濃度演算アルゴリズム



自社開発レーザー



欧州での成長投資

様々な産業で増加する分析・計測需要に対応

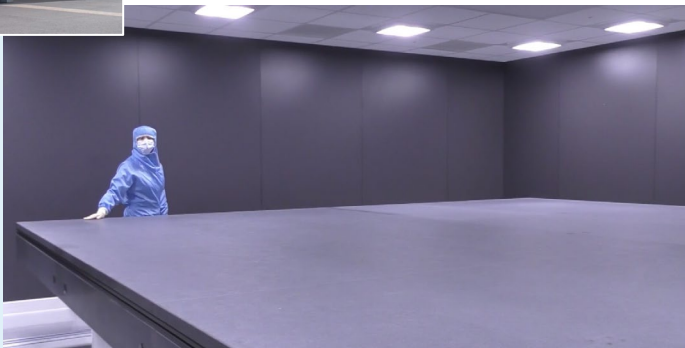
分光技術のリーディングカンパニーとして市場を牽引



- ✓ パリ近郊・サクレーにあるカスタムグレーティングの生産拠点を「HORIBA Europe Research Center」内に移転
- ✓ 生産機能の集約により、先端材料研究、医療やバイオテクノロジー分野などで増加する需要に対応

上：
ホリバ・フランス社

右：
大型グレーティング
の製造設備

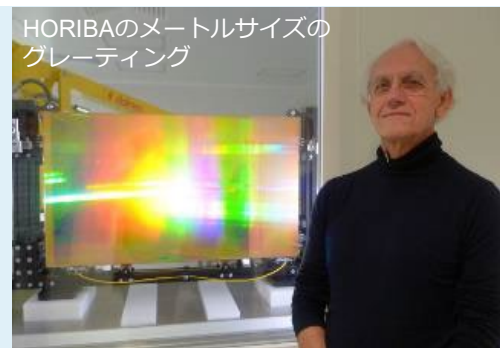


【グレーティング】

- 光を波長ごとに分散させるもので「回折格子」とも呼ばれる
- 分析機器やレーザーシステムなどの重要なコンポーネント

2018年にノーベル物理学賞を受賞した
ジェラルド・ムル教授（写真）
研究のためHORIBAのグレーティングを長年使用

HORIBAのメートルサイズの
グレーティング



カーボンニュートラル実現に向けた計測ニーズに対応

- ✓ ドイツ・ライヒリンゲンにある大気環境計測装置などガス分析装置の生産拠点を従来比約2倍に拡張し、今春より本格稼働
- ✓ 工場の生産効率向上やCO2排出低減のために高まるガス計測ニーズに対応
- ✓ ガス計測技術と燃料電池や水素製造装置の評価技術を組み合わせたトータルソリューションを提供



説明内容

- 2021年12月期 上期 決算概要
- 2021年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントで様々な社会課題に対応
- 株主還元

株主還元政策

基本的な考え方

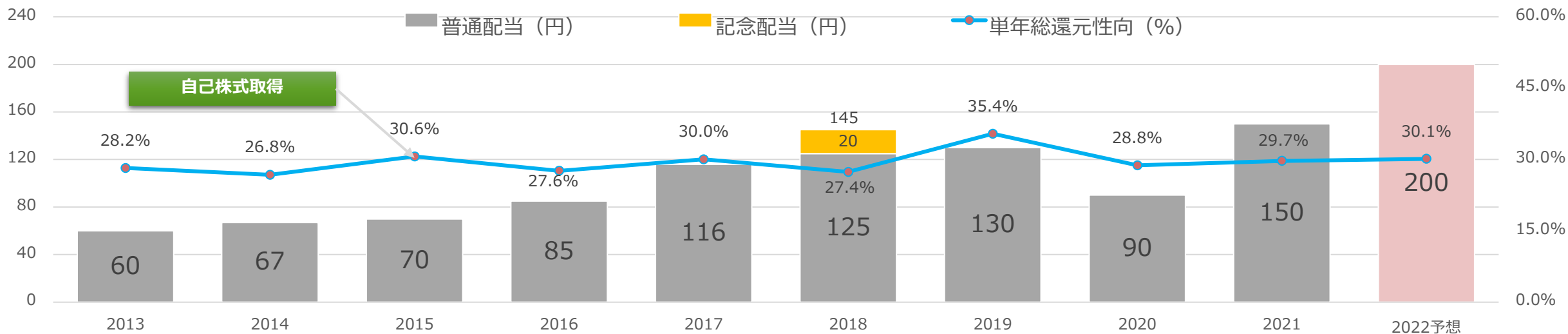
- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保（設備投資・M&Aなど）

配当金及び自己株式の取得

- 2020年実績 90円[中間 30円、期末 60円]
- 2021年実績 150円[中間 50円、期末 100円]
- 2022年予想 200円[中間 65円、期末 135円]

前回予想から
1株あたり20円上方修正
(中間配当金は5円増額)

配当推移





2022年12月期上期 決算説明会 ～決算詳細説明～

株式会社 堀場製作所
経営管理部 羽部 哲弘

2022年8月12日

2022年為替推移／想定レート／為替の影響額

(単位：億円)

	2021年		2022年				
	上期	通期	前回予想 (5/13)	上期実績	下期予想	通期予想	VS 前年
USドル	107.82	109.90	124	123.14	136.86	130	+20.10
ユーロ	129.89	129.91	133	134.39	135.61	135	+5.09

2022年上期 為替影響額（前年同期比）

売上高の増加	+ 70.5
売上原価の増加（逆符号）	▲ 24.8
売上利益の増加	+ 45.6
販売費及び一般管理費の増加（逆符号）	▲ 13.5
営業利益への影響	+ 32.0

為替感応度（2022年通期予想） 1円円安による売上高/営業利益の影響額

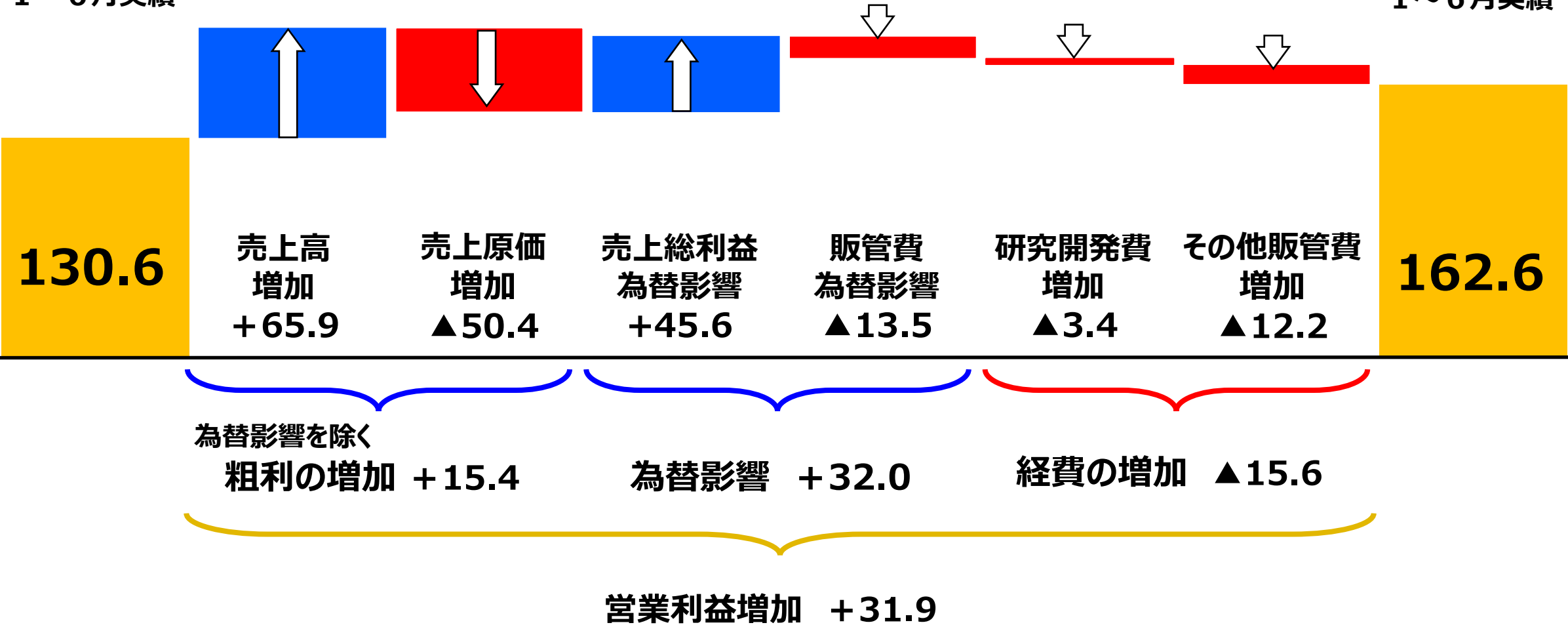
	売上高	営業利益
USドル	+ 7.0	+ 3.6
ユーロ	+ 3.4	+ 0.0

営業利益分析

(単位：億円)

2021年
1～6月実績

2022年
1～6月実績



営業外損益

(単位：億円)

	2022年上期
売上高	1,149.6
営業利益	162.6
経常利益	167.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112.4

	2022年上期	2021年上期
営業利益	162.6	130.6
金融収支	0.0	▲ 0.2
助成金収入	1.0	0.5
為替差損益	2.5	▲ 1.0
その他	1.6	0.5
営業外収支戻	5.2	▲ 0.2
経常利益	167.8	130.4

特別損益・法人税等

(単位：億円)

	2022年上期
売上高	1,149.6
営業利益	162.6
経常利益	167.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112.4

	2022年上期	2021年上期
経常利益	167.8	130.4
投資有価証券売却益	0.2	0.0
その他	▲ 0.1	▲ 0.4
特別損益戻	0.1	▲ 0.3
税金等調整前四半期純利益	167.9	130.1
法人税等など	▲ 55.5	▲ 42.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	112.4	87.4

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	2021年	2022年			2022年
	実績	前回予想 (5/13)	今回予想 (8/12)	対 前回予想	1-6月実績
設備投資額	124	150	150	-	40
減価償却費※	104	110	110	-	55
研究開発費	167	190	190	-	85
(対売上高比)	7.4%	7.3%	7.3%	-	7.4%

※無形固定資産の償却費含む

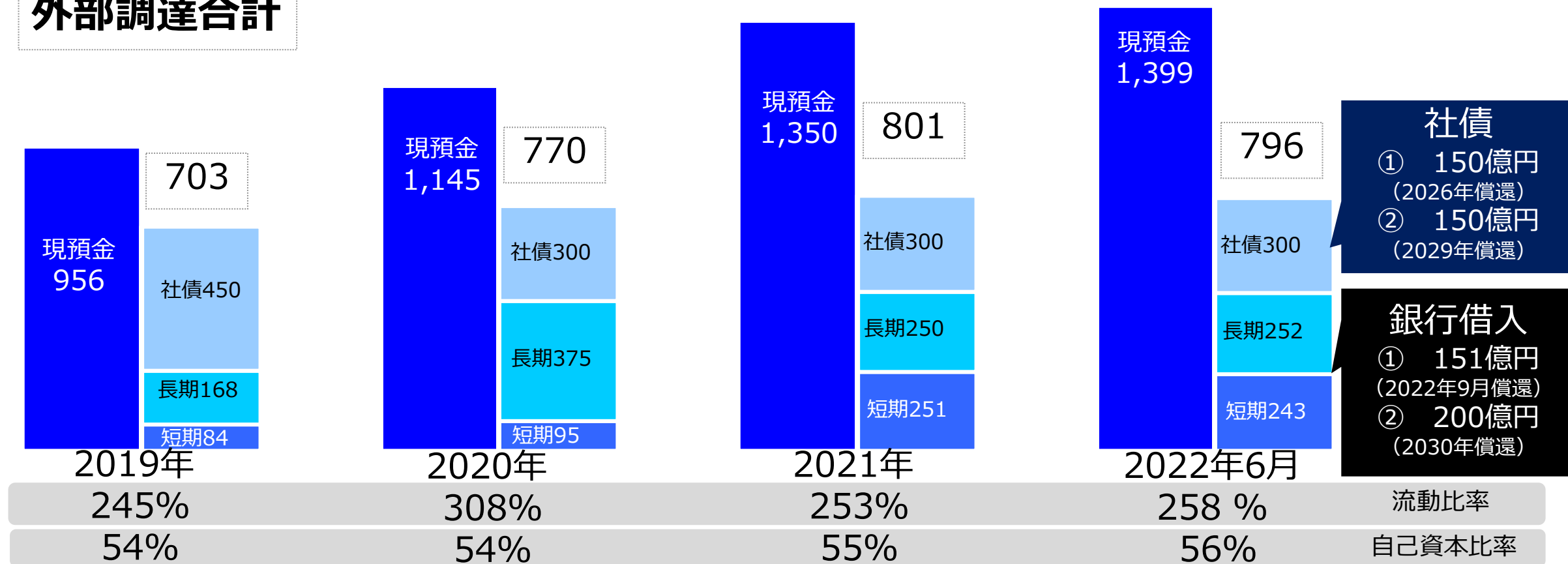
2022年 トピックス

- 有形固定資産：
継続：中国拠点強化、ホリバ・フューエルコン社新工場建設
新規：各拠点生産設備強化など

資金の状況

(連結ベース、各期末)
(単位：億円)

外部調達合計



・直近の格付け：R&I 「A」 (2021年8月)、JCR 「A+」 (2021年8月)

JASIS2022 HORIBAブースご案内



2022年9月7日（水）～9日（金）@幕張メッセ国際展示場

9月7日（水）

- ✓ IR担当者が投資家・アナリストの皆さまにHORIBAブースをご案内します※
- ✓ 先着順の事前申込みで、時間は申込み時に相談
- ✓ ブース内での密を避けるため、希望される方に個別でアレンジいたします（1組5名以下でグループでの参加も可能）
- ✓ 申込みはメールにてご連絡ください

堀場製作所 経営企画室 経営企画・IRチーム

ir-info@horiba.com

JASIS2022
ウェブサイトにて
事前登録をお勧めします



ご参加をお待ちしております！

ご参考

[参考]2021年実績/2022年予想【半期ごと】

(単位：億円)

	2021年実績			2022年		
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想
売上高	1,013	1,229	2,243	1,149	1,450	2,600
自動車	249	363	612	256	403	660
環境	100	101	202	101	133	235
医用	128	129	258	136	148	285
半導体	400	469	870	494	575	1,070
科学	134	165	299	159	190	350
営業利益	130	189	320	162	237	400
自動車	▲ 11	11	▲ 0	▲ 17	17	-
環境	11	8	19	6	13	20
医用	3	▲ 1	1	▲ 1	6	5
半導体	123	156	280	167	182	350
科学	4	14	19	7	17	25
経常利益	130	189	320	167	232	400
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	87	125	213	112	167	280

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun

おもしろ可笑

THANK YOU

Terima kasih
谢谢
Gracias
Σας ευχαριστώ πάρα πολύ
धन्यवाद
شُكْرًا
Danke
Tack ska du ha
Grazie
ขอบคุณครับ
Большое спасибо
Cảm ơn
감사합니다
Dziękuję
Obbrigado
Merci
ありがとうございました